

**19. 両側同時多発肺腺癌の2切除例**

藤田保健衛生大学呼吸器外科

樋口義郎, 須田 隆, 北村由香

根木浩路, 服部良信

症例1は74歳の女性。右上葉に4.5cmの肺腺癌に対し右上葉切除+ND2aリンパ節郭清を行った。左上葉にも10mmのGGOあり経過観察としたが12ヶ月の経過観察後腫瘍陰影の変化なく部分切除を行った。迅速病理で野口分類type Aと診断されたが最終病理はpulmonary tumoletであった。症例2は68歳の女性。右上葉に1.8cmの、および左上葉の1cmと5mmにGGOを認めた。まず右上葉切除+ND2aリンパ節郭清施行。野口type Bと診断。術後1ヶ月に左肺部分切除を行った。左上葉の2カ所もともに野口type Bであった。

**20. 多発肺病変各々の遺伝子変異**

愛知県がんセンター中央病院胸部外科

坂倉範昭, 石黒太志, 片山達也  
奥田勝裕, 福井高幸, 森 正一波戸岡俊三, 篠田雅幸, 光富徹哉  
同 遺伝子病理診断部 谷田部恭

73歳女性、両側多発cT1N0肺癌と診断され、まず右上葉切除+中葉部分切除を、5ヶ月後に左上葉区域切除+下葉区域切除を施行。病理では、右上葉に2つのBAC(p53/EGFR=WT/L858R)とAAH(WT/L858R)、左上葉は高分化腺癌(WT/L861Q)、左下葉は中分化腺癌(WT/L858R)であった。それぞれは独立したpT1N0と考えるが、変異形式は同一で、多発病変を考察するうえで大変興味深いものであった。

**21. 術前化学療法でCRを得た肺癌の1例**

公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科

木村智樹, 片岡健介, 加藤景介

西山 理, 近藤康博, 谷口博之

同 呼吸器外科 西村正士

土岐市立総合病院 市川元司

症例は64歳、男性。肺扁平上皮癌(cT2N1M0)にて、手術目的に当院に転院。また同時に、喉頭癌、食道癌、胃癌も合併。まず肺癌術前化学療法(CBDCAをAUC:6.0でday1, Taxolを70mg/m<sup>2</sup>でday1, 8, 15

を4週毎)2コース施行し、内視鏡的に腫瘍は消失。その後に肺癌の手術を施行したが、病理的にもCRと確認。更に化学療法を2コース追加。喉頭癌は放射線治療でCR、胃癌は幽門側胃切除、食道癌はEMRにて治療。肺癌術後約3年で再発なく生存中である。

**22. CBDCA, Paclitaxelによるinduction chemotherapyにてEf3が得られ完全切除が可能であったIII期進行肺癌の3例**

聖隸三方原病院呼吸器センター外科

棚橋雅幸, 山田 健, 森山 悟  
彦坂 雄, 丹羽 宏

【症例1】65歳男性。右肺尖部腺癌(cT4N0M0)の診断にてCBDCA+PTXとradiation 40Gyによるinduction chemoradiotherapyを施行しPRが得られた。右肺上葉切除、腕動脈上大静脈合併切除再建術を行い完全切除した。【症例2】72歳男性。右肺扁平上皮癌(cT4(PM1)N2M0)の診断にてCBDCA+PTXとradiation 40Gyによるinduction chemoradiotherapyを施行しPRが得られた。右肺下葉切除を行い完全切除した。【症例3】57歳男性。縦隔腫瘍にて摘出術を行い腺癌と診断した。FDG-PETとCTにて右肺上葉に異常集積のある結節を認め右原発性肺癌(cT1N2M0)と診断した。CBDCA+PTXによるinduction chemotherapyを施行しCRが得られ右肺上葉切除を行った。3症例ともinduction chemotherapyの組織学的効果はEf3であった。全例術後2年以上が経過したが無再発生存中である。

**23. 術前補助療法施行例の検討**

名古屋大学呼吸器外科

岡阪敏樹, 伊藤志門, 佐藤尚他

内山美佳, 宇佐美範恭, 横井香平

術前補助療法を施行した41例につき検討した。臨床病期はIIB7例、IIIA25例、IIIB9例で、組織型は腺癌20例、扁平上皮癌16例、大細胞癌5例であった。補助療法は化学療法のみが32例、化学放射線療法が8例であった。術前治療の奏効率は57.5%で、10例でdownstagingが得られた。組織学的治療効果は、Ef32例、Ef210例、Ef120例、Ef01例、不明8例であった。術式

は葉切26例、二葉切5例、全摘4例、試験開胸6例で、6例に気管支形成を、7例に胸壁合併切除を施行したが、周術期死亡はなかった。今後予後等を調査し、症例選択、治療方法について再検討したいと考えている。

**24. 術前導入化学療法症例の検討**

浜松医科大学第1外科

船井和仁, 鈴木一也, 高持一矢  
数井暉久

【目的】当科における術前導入化学療法の安全性と有効性を検討する。【対象症例】第三世代抗癌剤を用いた術前導入化学療法症例27例。【結果】27例に対して47コースの化学療法を施行した。効果はPR:7例、SD:19例、PD:1例で、奏功率は26%、病勢コントロール率は96%であった。41%にdown stagingが得られ、完全切除率は89%だった。治療関連死は認めなかった。【結語】当科における術前導入化学療法は安全に施行可能であり、有効性もacceptableであった。

**25. 当科における肺癌術後化学療法の実際**

愛知県がんセンター中央病院胸部外科

石黒太志, 片山達也, 奥田勝裕  
坂倉範昭, 福井高幸, 森 正一  
波戸岡俊三, 篠田雅幸, 光富徹哉

【目的】肺癌術後補助療法の現況について報告する。【対象、方法】2005年1月より2006年8月までの完全切除症例でpStage IB~IIIAにおける術後補助化学療法の内容と忍容性を後ろ向きに検討した。【結果】全症例118症例中46症例(50レジメン)に補助療法を施行した。プラチナベース群16例、UFT群30例、GEM単剤群4例で、grade 3以上の血液毒性はそれぞれ1例、0例、0例、grade 2以上の非血液毒性はそれぞれ7例、3例、1例であった。完遂症例は8例(50%)、22例(73%)、4例(100%)であった。プラチナベース群16例においてCDDPベースは5例、CBDCAベースは11例で、grade 3以上の血液毒性はそれぞれ1例、0例、grade 2以上の非血液毒性はそれぞれ3例(死亡例1例含む)、4例であった。完遂症例は1例(20%)、7例(64%)であった。【結論】プラチナ